

その後、箕輪地区は、干ばつになやまされることもなくなりました。

今では、犬神ダム（表郷村）からも水がくるようになりました。そして、荒地だった箕輪が原が開こんされ、りっぱな水田地帯に変わりました。



箕輪地区のおじさんの話

箕輪が原は、戦争当時は、飛行機をかくのうする場所にもなるくらい広い草原でした。また、原の草は、馬のえさや田のたいひに使われていました。箕輪が原の開発の頃は、戦後で食糧増産しょくりょうぞうさんの時代でした。しかし、原を水田にするためには、多くの水が必要です。近くの棚倉たなくらや釜ノ子かまこでは地下水がわき出ていることから、地区の人たちは、水脈すいみやくの調査をし、地下水の利用を考えました。ボーリングをし、地下水がわき出た時のことは忘れられません。水田作りの時は、今のようなりっぱな機械はなく、セミクローラーという機械を使い、みんなで力を合わせました。

今は、浅川町の1割程度も米を収穫できるようになりました。



現在の箕輪の水田地帯